

【担当教員名】 山岸達弥	対象学年	2	言語
	開講時期	後期	必修
	単位数	2	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

言語発達障害の中で、学習障害、多動性障害、特異的言語発達障害などの特徴を学ぶ。
代表的な検査の実践を通して検査概要を理解する。また、検査結果の解釈の仕方を習得し、指導プログラムへの流れを理解する。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

- 1 言語発達障害に関する基礎知識を習得し、概説できる。
- 2 学習障害、多動性障害、特異的言語発達障害などの臨床像を把握し、説明できる。
- 3 各障害の評価・訓練を学び、その要点を説明できる。
- 4 言語聴覚士と発達障害児の生活面でのかかわりを学び、実態について説明できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	言語発達障害オリエンテーション	1	講義
2	学習障害	2	講義
3	学習障害	2	講義 VTR
4	多動性障害他	2	講義
5	多動性障害他	2	講義 VTR
6-7	検査の種類と実際(1)	3-4	講義 演習(2コマ連続) A group
6-7	検査の種類と実際(1)	3-4	講義 演習(2コマ連続) B group
8-9	検査の種類と実際(1)	3	講義 演習(2コマ連続) A group
8-9	検査の種類と実際(1)	3	講義 演習(2コマ連続) B group
10-11	検査の種類と実際(2)	3-4	講義 演習(2コマ連続) A group
10-11	検査の種類と実際(2)	3-4	講義 演習(2コマ連続) B group
12-13	検査の種類と実際(2)	3	講義 演習(2コマ連続) A group
12-13	検査の種類と実際(2)	3	講義 演習(2コマ連続) B group
14	まとめ		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書				
参考書	WISC-III アセスメント事例集	—理論と実際—	日本文化社	2005年 3400円
その他の資料	プリント、その他			

【評価方法】	【履修上の留意点】
出席状況、レポート、発表内容などについて総合評価する	